

## 情報を活用した教育改善 支援への取り組み ～日本福祉大学 IR推進室の活動から～

2011年11月9日(水)  
大学職員情報化研究講習会  
～応用コース～第2分科会

日本福祉大学 IR推進室長  
大崎 博史

1

## 報告内容

1. IRとは？
2. 本学のIR機能
3. IR機能日米比較
4. IR推進室での活動内容
5. データウェアハウス構築に向けて
6. IR機能の組織化の特徴とねらい
7. IR推進の課題

2

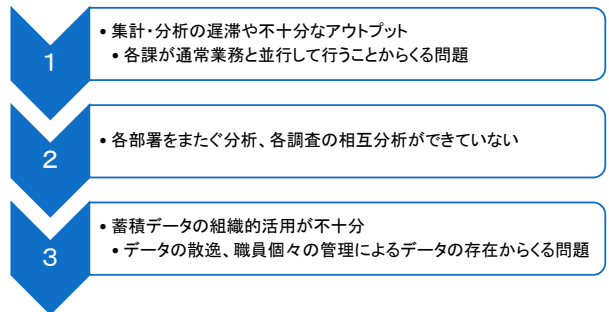
## IRとは？

- IR(Institutional Research)とは「意思決定と企画立案に有効なデータを収集・分析・報告する組織的活動」
- 但し、概念的に確立されている訳ではない。
- 日本語の定訳も未だにない
- 世間一般でIRといえば・・・。

1. IRとは？

3

## これまでの「IR的」活動の課題



その結果・・・

2. 本学のIR機能

4

政策の意思決定は、  
客観的なデータ分析よりも  
経験を過度に重視する傾向にあった

2. 本学のIR機能

5

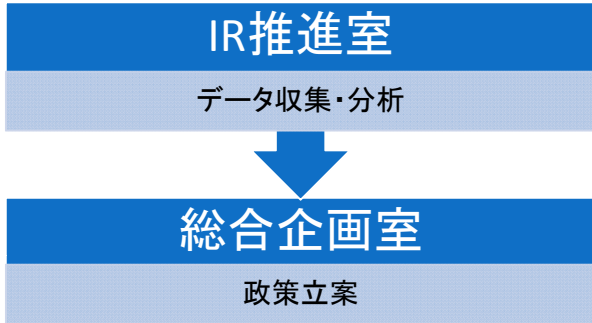
## 本学のIR機能

	位置づけ	構成員
総合企画室 (2009年度 から再開)	教育、研究、経営の諸領域における企画立案と意思決定に必要な諸データの多面的収集、多面的加工と総合分析、そして一元統管理を活動の主軸とし、学内諸機関・部局との協働・連携を通じて全学園における『政策形成・統合』を推進するため、「総合企画室」の下に「IR推進室」が設置された。	構成員は計7名 室長: 常務理事(企画) 室員: 6名(教員3名、職員3名) ※教育・学生関係学長補佐(機構長)がオブザーバー参加 ※室長及び室員は理事長・学長会議の協議を踏まえて学長が指名し、大学評議会及び常任理事会の承認を経て学長が任命。
IR推進室 (2009年度 設置)		構成員は計3名(専属の専任は1名) 室長: IR推進室長兼情報政策課長 室員: 事務職1名、専任研究員1名

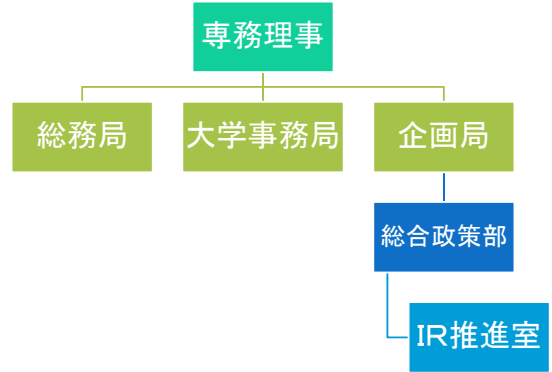
2. 本学のIR機能

6

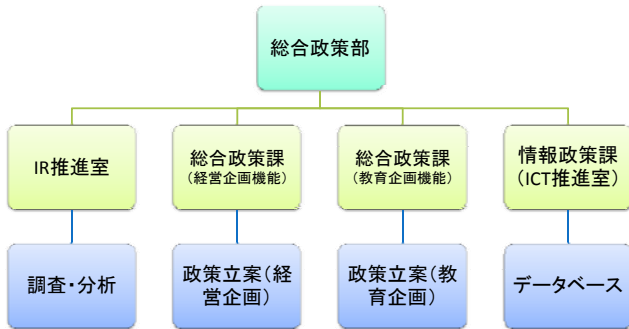
### 「総合企画室」と「IR推進室」の役割



### 事務局内の位置付け



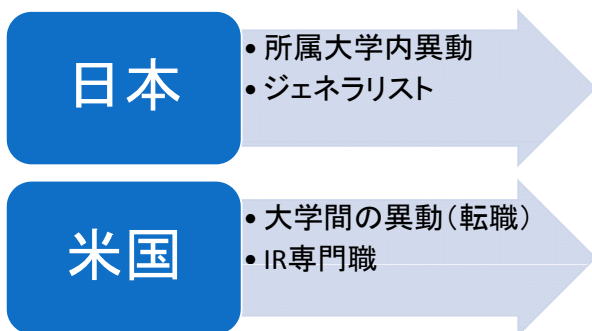
### 総合政策部の構成



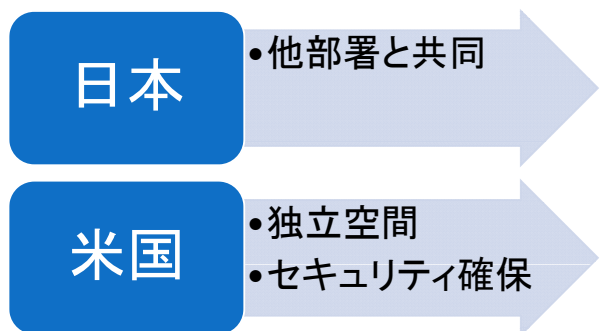
### IR機能日米比較①(分析と提案)

	分析	提案
日本	○	○
米国	○	×

### IR機能日米比較②(人材)



### IR機能日米比較③(オフィス環境)

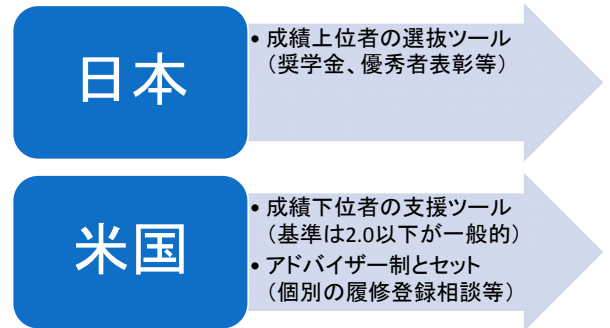


## IR機能日米比較④(情報公表)

	国の大学データベース	他大学との比較
日本	×	×
米国	○ (IPEDS:連邦政府の高等教育情報データベース)	○

IPEDS(Integrated Postsecondary Education Data System)は、全米教育統計センター(NCES:National Center for Education Statistics)が中心に集積したデータから構成される。主なデータ:入学・在籍状況、学位授与状況、卒業率、教職員人事情報、奨学金、財務・会計情報等)

## IR機能日米比較⑤(GPAの活用)



## IR推進室の業務分類(項目は例示)

## 1 定例報告

- 外部調査
- 自己点検・評価報告
- 大学認証評価

## 2 定例調査

- 新入生アンケート
- 在校生アンケート

## 3 定例分析

- 社会福祉士合格者分析
- 公務員試験合格者分析

## 4 非定例分析

- 上層部からのオーダー
- 現場からのオーダー

## IR推進室の主な分析実績(例示)

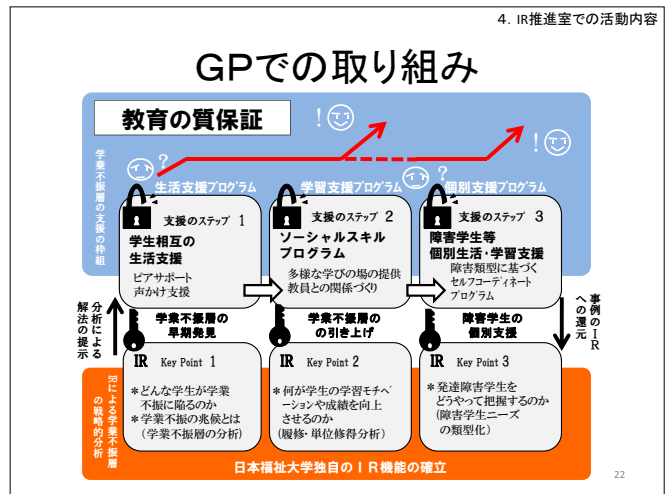
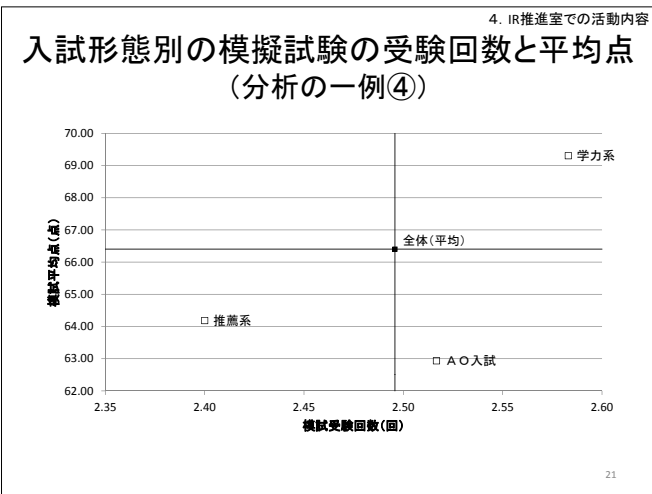
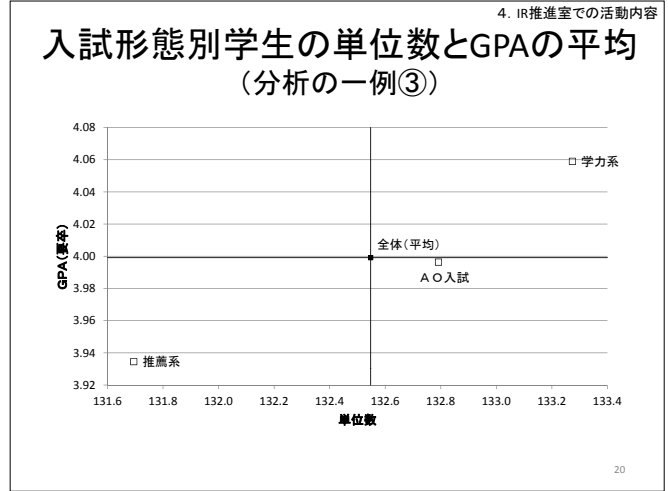
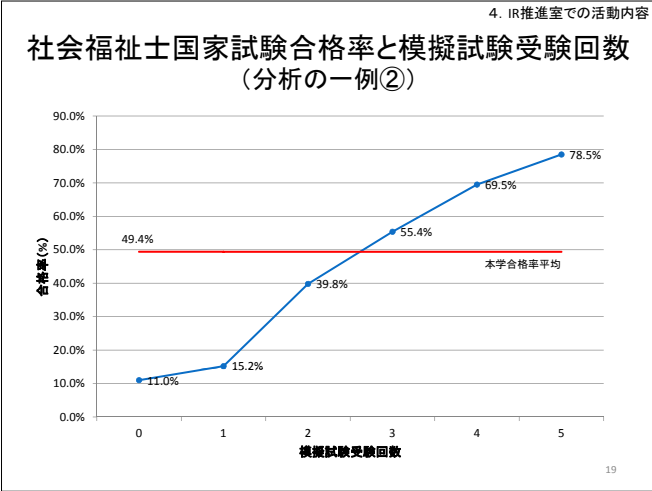
分析テーマ	分析ポイント
公務員試験における合格・不合格学生の特性分析	・入学時公務員就職希望者の受験率 ・公務員試験対策の効果測定
社会福祉士国家試験合格・不合格学生の特性分析	・ゼミ別合格率の分布 ・入試形態別の合格率 ・国家試験対策利用者別の合格率
本学経済・福祉経営学部の志願者・入学者特性分析	・出身校別志願者と入学者に関する分析
本学卒業生に対する社会人教育プログラムニーズ調査	・職業分野別学習ニーズ調査・分析 ・職種別学習ニーズ調査・分析
付属高校出身学生の学習状況等における現状分析	・修得単位数、GPA、社会福祉士国家試験結果、離学状況等の現状把握
学生のSPI得点と成績の関係分析	・高校ランク、入試形態別のSPI得点とGPAの関係分析 ・就職志望業種とSPI得点の関係分析

## 社会福祉士国家試験合格・不合格学生の特性に関する分析報告書(目次)

- 社会福祉士国家試験合格者の状況(合格者数・合格率)
  - 本学の社会福祉士合格者数と合格率
  - 社会福祉学部(現役)の学科別合格者数と合格率
  - 全国大学別の合格率と本学の位置(現役のみ)
- 入学時学力・在学中成績別の合格率比較
  - 入学時の学力別の合格率
  - 在学中の学習状況(修得単位数とGPA)と合格率の関係
- 支援プログラム参加と合格率(対策講座・直前面接・模擬試験)
  - 対策講座・直前面接・模擬試験の参加者と合格者
  - 模擬試験の得点と国家試験合格の関係
  - 直前模擬試験の得点と合格率
  - 直前模試・GPA・高校ランク別の合格率
- 「AO」「推薦」入試学生の学習等の状況と合格率
- ゼミ別の国家試験合格率の比較

## 入試区分別社会福祉士合格率(分析の一例①)

入試区分	合格率
学力系	60.8%
推薦系	41.9%
AO入試	32.8%
合計	49.4%



4. IR推進室での活動内容

### 学業不振学生への対応

- 学業不振学生とは？(定義)
- まずは状況を知る(現状把握)
- どの層をどこまで引き上げるか(目標設定)
- 早い時点で手をうてないか(早期発見)
- 効果的な対応は何か(プログラム実施)

23

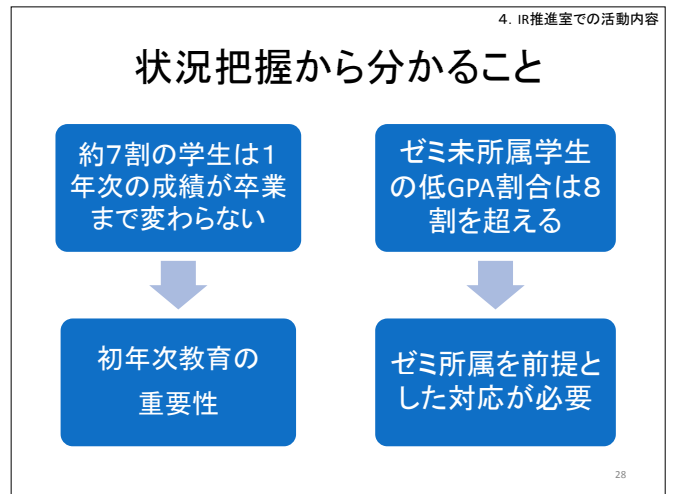
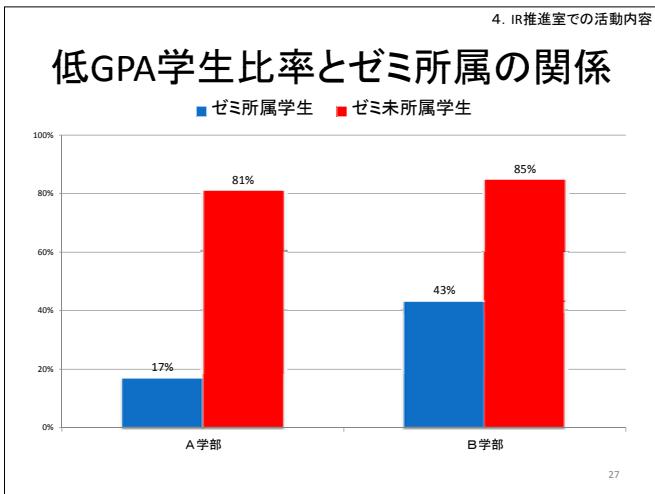
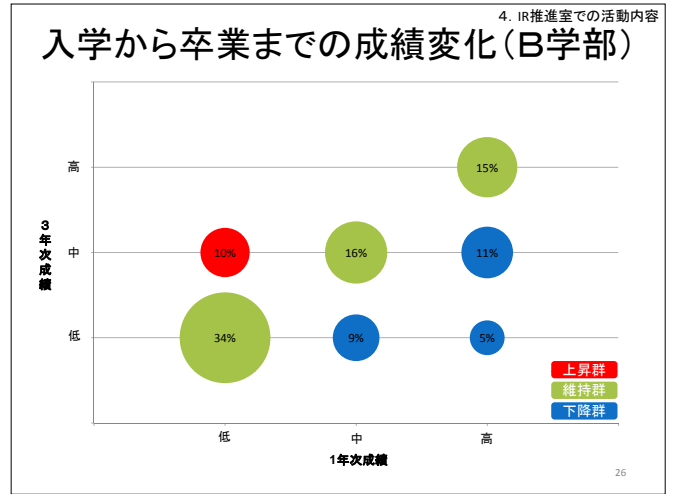
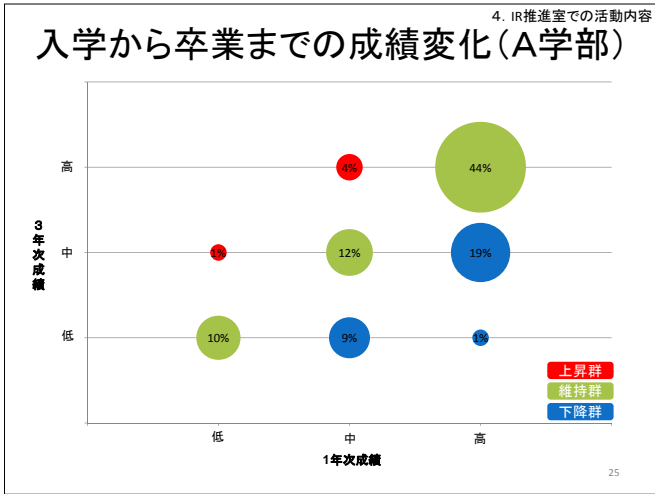
4. IR推進室での活動内容

### GPAの段階表示とコメント

段階表示	範囲	コメント(学期ごとに表示)
V	3.0~4.0 (4.5~5.0)	大変良好な学習状況です。
IV	2.5~2.9 (4.0~4.4)	良好な学習状況です。
III	2.0~2.4 (3.5~3.9)	もう少し積極的に学習しましょう。
II	1.5~1.9 (3.0~3.4)	履修科目についてしっかり学習しましょう。
I	~1.4 (2.0~2.9)	履修登録段階からの計画を含めて学習全体の見直しが必要です。学習相談を行ってください。

※範囲の上段は現行基準(履修単位算出)、下段の括弧内は旧基準(修得単位算出)

24

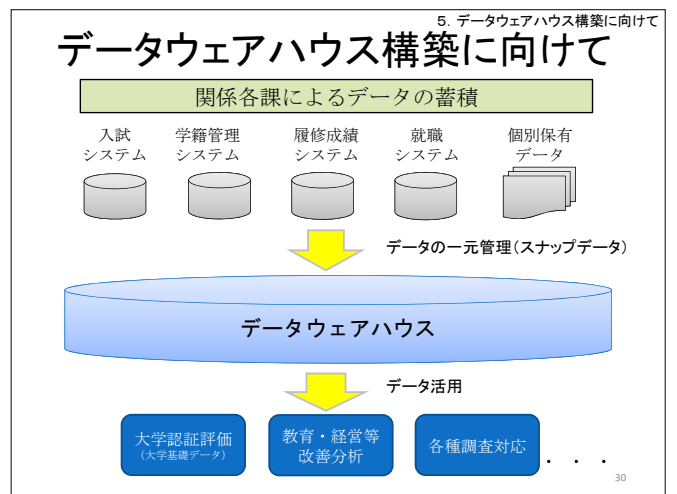


4. IR推進室での活動内容

### 「IR推進室」の分析業務の流れ

業務	概要
1 担当事務課室ヒアリング	(1-1) 担当課室管理データの確認・収集 (1-2) 担当職員の実験をヒアリング
2 先行研究調査	(2-1) テーマ課題に対する先行研究の収集 (2-2) 先行研究のレビュー
3 全学的管理データ収集	(3-1) 担当課では入手困難な他課室データの収集 (3-2) 各種アンケート(質的)データの収集
4 分析作業	(4-1) 担当職員の実験の「見える化」 (4-2) 関連要因を加味した報告の柱立て
5 分析結果の報告	(5-1) 分析結果報告(総合企画室、理事長・学長会議) (5-2) 経験豊富な教職員のデータ解釈に資する意見
6 関係機関へのフィードバック	(6-1) 関連教職員へのフィードバック(FD等) (6-2) 関係学生へのフィードバック

29



## DWHに持たせる2つの機能

### データ蓄積

- 経年でスナップデータを保存

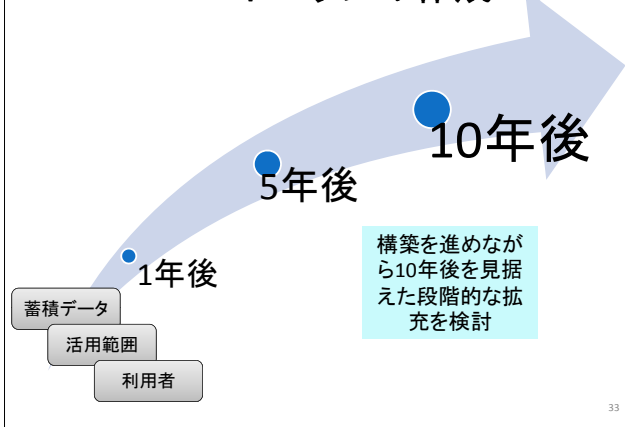
### データ活用

- 定例報告、各種分析

## 構築に向けた試行錯誤

- 1. 全データの一元管理が理想だが・・・
  - 現実とのギャップ(お金、時間・・・)
- 2. 構築の優先順位が必要
  - 米国訪問からの示唆(定例報告に必要なデータ + 分析活用データ)
- 3. 重視する機能の変化
  - データ活用 → データ蓄積

## ロードマップの作成



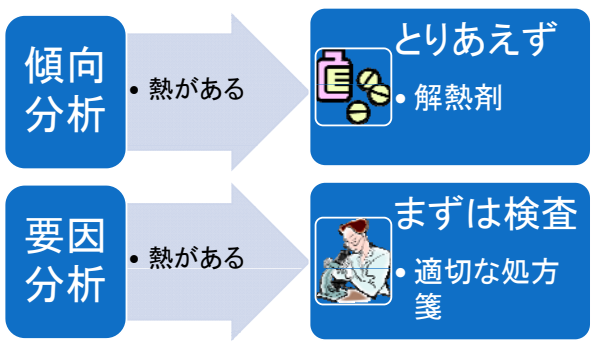
## IR機能の組織化の特徴

- 1 「総合企画室」と「IR推進室」
  - 2つの組織からなるIR機能(政策提案、データ収集・分析)
- 2 総合企画における経営・教学の協働
  - 構成員は教職同数、経営・教学各領域からの人選
- 3 政策課題への迅速な対応を重視
  - 「総合企画室」⇒「理事長・学長会議」
- 4 事務組織に配置された「IR推進室」

## IR機能の組織化と3つのねらい

- 1 担当課室の分析業務支援
  - 分析時間の短縮
  - 分析内容の高度化
- 2 合意形成型IRの構築
  - 政策実行教職員の主体形成
  - 教職員・学生との共通理解を得る分析手法
- 3 組織や教職員間の調整
  - 教員の視点、職員の視点
  - 現場の経験や思いを「見える化」

## 傾向分析から要因分析へ



## 事務組織におけるIR推進

### 事務組織内に配置する優位性

- 事務組織内の問題意識から組織化が比較的容易
- 日常業務データを収集・管理
- 個別事例ではない大学全体を見る集計的視点
- 効果的な調整機能(特に、教員間)
- 研究主体ではないIR推進  
→「知見」がえられたで終わらせない

### IR推進室の構成員

- 事務組織内への「研究員」配置(分析内容の高度化、教員との距離が近い職員)
- 教学・経営部局での経験を持つ職員
- 情報システムに長けた職員

※分析スキル面での教員からの支援

## IR推進の課題

- IRの浸透
  - 信頼関係構築
  - 職員のIRスキル向上
- 過度な期待の是正
- 業務範囲の限定
- 業務バランス – 限られた人的資源の配分